

5期生の実習スタート

この数年続いた新型コロナウイルス感染症も5月8日から5類感染症になり、忘却の彼方であった日常が戻りつつあります。林業アカデミー5期生も入学からひと月が経ち、それぞれが日南町の暮らしに慣れてきました。今年の学生は社会人経験者が多く、学生のほとんどが日南町に移住して1年間林業を学びます。4月後半からは本格的な実習も始まり、慣れない山での作業に悪戦苦闘しながら林業を学んでいます。また、昨年同様、日南町の様々なイベントへ参加し、町民のみなさんと交流する機会を作っていきます。

林業アカデミーも開校以来5年が経ち、39名の卒業生が神奈川・愛知など全国各地で活躍しています。日南町で林業に従事する卒業生も、地元出身者だけでなく首都圏からの移住者も含め10名を超えました。日南町に残った卒業生の中には、子どもが誕生した者も

【林業アカデミーHPアドレス】 <https://nichinan-ipc.or.jp/forestry/>

問 にちなん中国山地林業アカデミー TEL 8410070

あり、地域住民としての責務を果たしながら日南町での定住を決めた者もおります。設立当初の目標であった日南町の林業の担い手確保とともに、卒業生を全国に輩出し日本の山を護るという目標を実現しつつあります。今年度も一所懸命に、学生一人ひとりに親身な指導を心掛け、日南町で日本林業の担い手を育成します。



獣害対策 アップデート 第23回 苗を食べる 外来生物

日野郡鳥獣被害対策協議会
川野 風花
【問合せ】 72-1399

いよいよ稲作が忙しくなる季節ですね。イノシシが田んぼを狙うのは乳熟期の7月頃ですが、植えた直後の苗を食べる中型動物ヌートリアをご存じでしょうか。

このヌートリアは、明治38年頃に南アメリカから毛皮や食肉目的で持ち込まれた外来生物で、見た目は大きなネズミに似ています。現在、日野郡内でのヌートリア被害は以前に比べ減少しましたが、まだ時々ヌートリア被害が発生しています。

ヌートリアは主に河川や水路のため池などに住み着くので、これらの水場近くにある水田でヌートリア被害が多くなります。いざ苗を食べられた際に、ヌートリアの犯行が見分けるポイントには食べ跡と足跡です。ヌートリアが食べた苗の食べ跡は、鋭い刃物ですっぱり切ったような切り口になります。また、ヌートリアには水掻き

が発達した後ろ足と長いしっぽがあるので、足跡の間にしっぽを引きずった細かい線が残ることがあります。

防護対策としては、中型動物対策でおなじみのネットと電気柵を組み合わせた『楽落くん』が効果的です。が、広い水田に設置するのはかなり大変です。外来生物であるヌートリアは、

駆除により日本からいなくなるのが理想です。「被害現場が水場に近い・苗が刃物で切られたよう・水掻きのついた足跡・しっぽを引きずったような線がある」といった場合は、役場農林課または当協議会にご相談を！



ヌートリアの食べ跡

